

友の会会報

着任のごあいさつ

館長 佐藤 広明

この4月に館長を拝命した佐藤広明と申します。友の会の一会員としても、お付き合いをよろしくお願ひします。

友の会会則には、会の目的を達成するためとして、県博の諸事業への広範な協力が明記されています。まことに心強い限りです。

今年度は、本館との共同企画展の形で「私の宝物」展を開催していただくことになっています。県民に親しまれる博物館をめざしてどのような催しになるのか、今から楽しみにしております。また引き続き、正面玄関前にさまざまな鉢植えを御寄贈いただき、手入れも行っていただいております。改めてお礼を申し上げます。

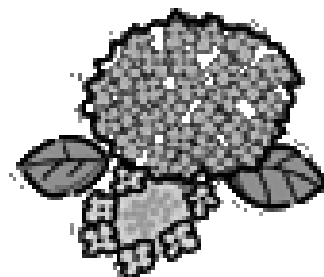
さて、本館も開館38年目を迎え、施設・設備の老朽化等が目立ってきておりますが、職員一同、現状の中で最善を尽くし、県民の皆様にも少しでも大きな感動・満足を味わっていただけるよう努力してまいりたいと思っております。

友の会の会則によれば、館長は顧問として位置づけられ、「会長の諮問に応じ意見を述べる」とされておりますが、友の会の皆様からも、県博の運営等について折に触れて御意見を頂戴できればありがたいと思っております。

これからも友の会の着実な発展をお祈りするとともに、友の会の皆様の県立博物館への末長い御支援をお願いしてあいさついたします。

友の会事務局より

- ・入院加療中の石島会長から、皆さまによろしくとのメッセージがありました。一日も早いご回復をお祈り致します。
- ・第2回目の講演会は下記の内容で、10月に予定しています。期日が近づきましたらご案内を差しあげます。
演題「統一山形県初代県令三島通庸の土木建築技師『原口裕之』について」
講師 本会会員 木村弥一郎氏
- ・共同企画展「私の宝物」出展のご案内を差しあげました。会員多数の出展を期待しております。
- ・今年度の会報第1号(通巻6号)をお届けします。6月、10月、2月に発行の予定です。会員の投稿も大歓迎です。内容は問いませんのでふるって原稿を事務局までお寄せ下さい。



ロックウォッチング

学芸員 石山泰規

山形市七日町通りを北へ向かって散歩していると、目に飛び込んでくるのが、文翔館（旧山形県庁舎）です。今回は、この建物に使われている岩石に関する紹介をしたいと思います。

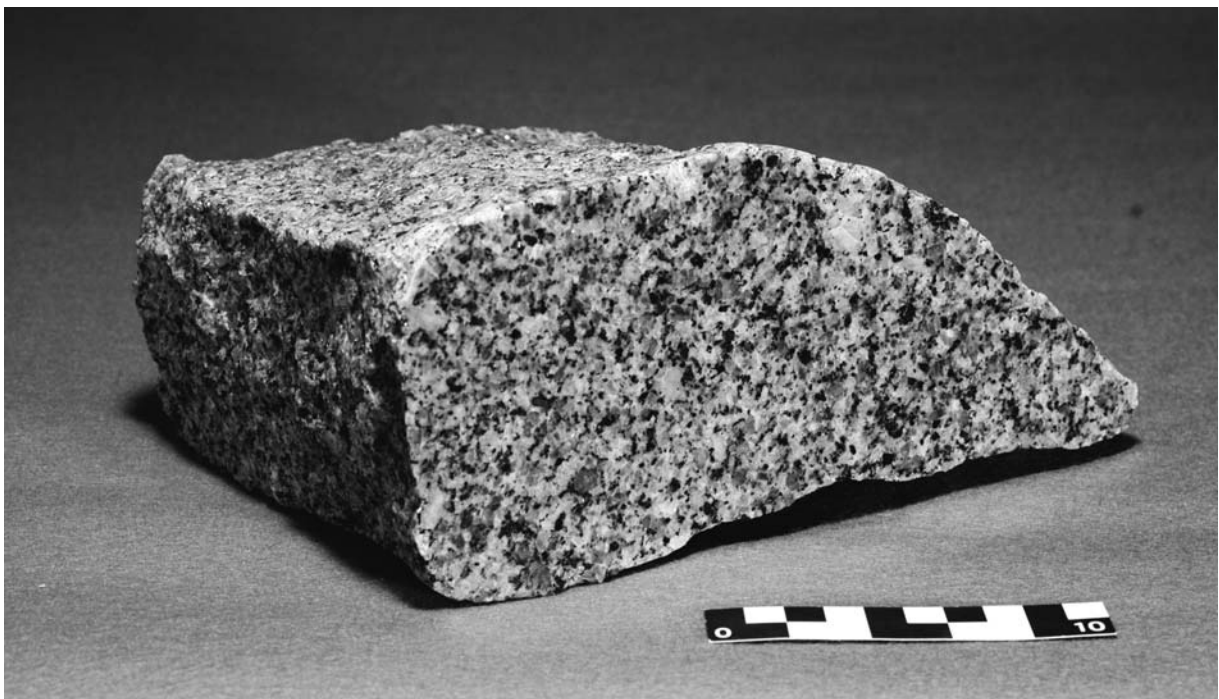
山形県庁舎は明治10年に建設されましたが、明治44年5月の山形市北大火により消失してしまいました。その後復興され、大正5年6月に完成したものが現在の文翔館です。この建物は、イギリス・ルネサンス様式を基調としたもので、レンガ造り3階建てとなっており、外廻りの壁面は石貼りで覆われています。

昭和50年まで県庁舎として使用されていましたが、移転後は文化財として保存することになり、昭和59年12月に国の重要文化財に指定され、保存修理工事が平成7年9月に完成しました。

保存修理工事は、創建当時とできるだけ同じ材料を用いました。屋根のスレートは、宮城県雄勝町産のものを用いました。スレートとは粘板岩のことで、薄く剥がれるのが特徴です。人造の石綿スレートが登場して、「天然スレート」と呼ばれるようになりました。硯や床材などに使われています。赤レンガのJR東京駅の屋根もスレートで葺かれているのは有名です。日本では雄勝の他、登米などが主な産出地です。

バルコニーを見ると、花こう閃緑岩の装飾が際立ってみえます。また、花こう閃緑岩は土台や外壁にも使われています。花こう閃緑岩は、地下の深い所で広い範囲にわたってマグマがゆっくりと冷えて固ったため、岩石を造る鉱物は、一つひとつが大きな結晶として成長しています。花こう閃緑岩をつくる鉱物の種類は、黒雲母・角閃石・正長石・斜長石・石英などです。花こう閃緑岩は広く使われている石材のひとつで、県内では、小国町赤芝、南陽市釜渡戸などが産地となります。特に、釜渡戸のものは「金山みかげ」とも呼ばれ、堅くて、灰青色から青黒色の美しい色の良い組織をもっています。この岩石は、東北大学の測定（K-Ar法）によれば、1億1,900万年前のものといわれ、県内の花崗岩類の中では、最も古い年代の岩石です。

建物に使われている岩石に目をこらして調べてみるのも楽しいものです。もっときれいな石を見に行きたくなったら、今度は墓地に行ってみましょう。さまざまな石が使われているので、まるで石の博物館のようです。



「金山みかげ」ともよばれている花こう閃緑岩（県立博物館所蔵）

展示会の見どころ

企画展

庄内砂丘と海岸林
—クロマツ林の歴史と自然—
2009年6月20日～7月26日

庄内砂丘はクロマツ林に覆われています。これは風と飛砂を防ぐために植えてきた人工林です。多くの先覚者たちによって植林されたクロマツ林、その事業は子孫代々に引き継がれ、庄内の砂防林の基礎を築き発展させました。



鳥海山と砂丘林

漫画で読む「公益の祖—本間光丘」。だれにもわかりやすく書かれています。ぜひご購入ください。クロマツ林の成り立ちについては、残された絵図や資料、記念碑などをもとにその歴史にふれることにします。とくに、本間光丘、佐藤藤蔵、曾根原六蔵、佐藤四郎右衛門、戦後の国営植林事業については、多くの資料にもとづいて紹介します。

また、植林にいたる要素として、庄内砂丘の成り立ちと砂とのたたかいを取り上げます。

○展示解説会（午後1時30分より）

6月20日（土）、21日（日）

○関連講座（午後1時30分より）

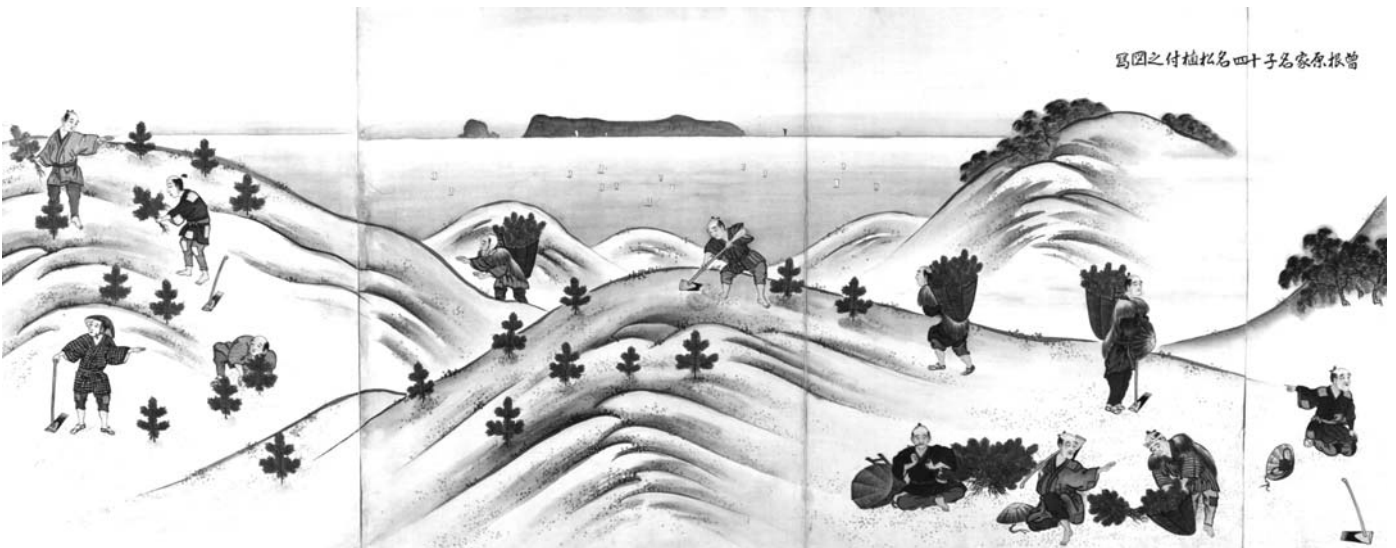
7月4日（土）「庄内砂丘と海岸林—クロマツ林植林の歴史—」

○関連図書販売

本間光丘の思想に学ぶ「酒田に本間光丘あり」

発行：酒田まちづくり開発（株） 定価：600円

漫画で読む「公益の祖—本間光丘」。だれにもわかりやすく書かれています。ぜひご購入ください。



曾根原家名子十四名松植付之図

曾根原家名子十四名松植付之図（個人蔵）

特別展

山寺 —歴史と祈り—

2009年8月8日～10月19日

山寺立石寺（山形市山寺）は、東北の霊山として全国的に知られ、慈覚大師・円仁の開山であると伝えられている古刹です。また、山腹には塔中寺院が今でも残り、^{がが}峨峨とした岩山の中にあります。

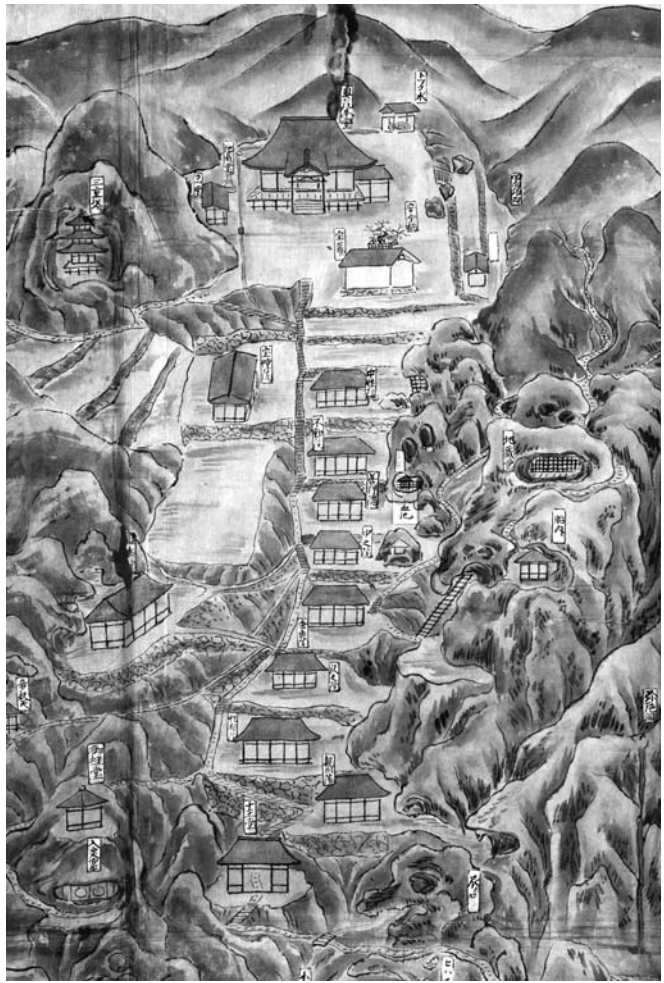
本展は、今まで取り上げられることの少なかった山寺の歴史や習俗を、山内に残る古文書や仏像、工芸品などとともに多角的に明らかにしようとするものです。



地藏堂遺跡出土縄文土器（個人蔵）



木造大日如来坐像（立石寺所蔵）



山寺宝珠山立石寺図（個人蔵）

○特別展記念講演会

（両日とも午後1時30分より3時まで）

8月8日（土）

「山寺と死者供養」

講師：鈴木岩弓（東北大学大学院教授）

9月12日（土）

「村山地方の山岳信仰—現世利益と先祖供養—」

講師：関口 健（日本山岳修験学会会員）

○現地研修会

8月6日（木）（午後6時より8時まで）

「体験！夜行念仏」

9月19日（土）（午前10時より午後4時まで）

（午前：根本中堂、午後：峯の裏）

○展示解説会

8月15日（土）、9月13日（日）

（両日とも午後1時30分より）